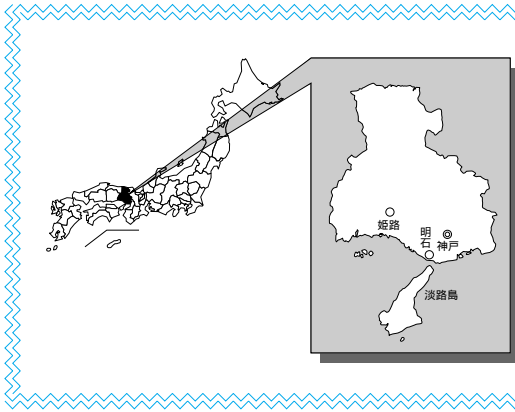


# 土木紀行

## 兵庫運河 兵庫県神戸市



### 1. はじめに

神戸市兵庫区に位置する兵庫運河は、船の避難場所や和田岬を迂回するバイパスとして明治時代に整備されました。現在、広義には「新川運河」「兵庫運河」「兵庫運河支線」「苅藻島運河」「新湊川運河」の総称として使われることもありますが、ここでは明治7～9年に建設された「新川運河」と明治29～32年に建設された「兵庫運河」について案内します（写真 1）。

### 2. 兵庫運河の歴史

明治から昭和初めにかけて兵庫運河は、海難事故を避けるための「バイパス航路」として活躍しました。その後、戦後に運河の拡幅・浚渫工事による貯木場整備が行われ、<sup>はしけ</sup> <sup>いかだ</sup> 舢舨や筏が往来する水

路および水面貯木場としての役割を担いました。平成に入ると原木輸入の減少や運河周辺企業の業態変化によって、周辺の製材会社や製粉会社の多くが撤退し、運河に求められる機能が再度変革期を迎えています（写真 2）。

最近の兵庫運河は、レガッタなどの水上スポーツや地域のイベント等の親水空間として、利用転換が図られています。運河という歴史的な遺産を、水辺の賑わい空間や憩いの場所を提供する地域資源として引き継ぎ、今まさに運河の魅力再発見プロジェクトが進んでいます（写真 3）。

### 3. 兵庫運河建設の功労者

現在の神戸港は、江戸時代「兵庫津」として北前船などの往来で栄えた港です。港の入口に当たる和田岬付近は、潮の影響や波、風が強く、港に入る船にとって事故の発生しやすい海域でした。1874（明治7）年、当時の兵庫区長・神田兵右衛門が、船が安全に入港し避難できるように運河建設を始めました。2年がかりの難工事により、計画の一部であった現在の「新川運河」が完成しました。

その後、この仕事を受け継いだのが八尾善四郎です。地元では田畑への塩害や地下水（井戸水）、地域分断の問題を心配して反対意見も多かったようです。粘り強い説得を行うとともに、彼は兵庫運河株式会社を設立して、1896（明治29）年に工事を再開し、3年の歳月を経て当



写真 1 兵庫運河  
（東からの眺望）



写真 2 水面貯木場



写真 3 新川運河チャネル  
ブルムナード



写真 4 兵庫運河株式会社  
付属地図



写真 5 兵庫運河祭



写真 6 レガッタ風景



写真 7 八尾善四郎銅像



写真 8 清盛像と琵琶塚

初計画の兵庫運河を1899(明治32)年に完成しました。年間10万隻もの船が通行し、船の避難場所としてだけでなく、運河は木材や建設資材、食料品等の物流機能を担うようになりました(写真 4)。

#### 4. 運河の役割および地域の関わり

第二次世界大戦後、船舶が大型化して運河の利用が減少すると、一部は水面貯木場となり筏荷役が活躍しました。運河沿いには多くの木材関連企業が立地し製材等を出荷していました。その後、世界的な環境問題や各国の経済政策等で、日本の原木輸入は激減しました。木材は原木から製材等に加工された荷姿での輸入が多くなり、水面貯木場は使われなくなりました。また、高度経済成長期(1970年代)以降、運河の水質悪化が地元でも取り上げられるようになり、周辺企業や住民による水質浄化や周辺美化をめざした清掃活動が取り組まれています。

船の避難場所に始まり、輸送路や貯木場として海運や地元産業を支えてきた運河は、物流面での役割が低下する一方、環境面における住民の啓発活動が盛んになってきました。運河沿いに緑地やプロムナードが整備され、親水機能を活かした各種イベントが催されています。地域の観光資源や憩いの場として、新たな賑わい再生を目指す取り組みが進められています(写真 5)。

#### (1) 浜山レガッタコース

兵庫運河の中段、浜山小学校北側の遊休化した水面貯木場を利用して、地元の人たちの手で2005(平成17)年に浜山レガッタコースが誕生しました。コースを管理する「兵庫運河浜山レガッタコース管理委員会」は、競技用コースとして全国組織の公認を受けています。地元主催のレガッタレースの定期的な開催に加え、全国的な大会への選手の育成も進んでいます(写真 6)。

#### (2) 運河の魅力再発見プロジェクト

兵庫運河は2008(平成20)年1月に国土交通省港湾局より「運河の魅力再発見プロジェクト」の認定を受けました。地域が運河の魅力を再発見し、水辺の賑わい空間作りや観光、防災機能の強化など、地域の個性を活かした振興策を図るものです。これを契機に地元では、地域住民・地域企業・学識経験者・行政で構成する協議会を設置し、2009(平成21)年3月にさまざまな活性化策が提案されました。その後、「兵庫運河活性化会議(事務局:兵庫区まちづくり課)」にて活動を継続し、具体化に向けた取り組みを進めています。

#### 5. おわりに

当地は平安時代の「平清盛」とも縁のある地で、運河周辺には関連する史跡が多数存在します。「清盛塚」は大正時代の調査により、実際の墳墓ではないことが判明していますが、約800年前に日宋貿易の拠点となった「大輪田泊」については、一説によると43haの人工島「経ヶ島」を現在の清盛塚付近の場所に造成して南東からの波を防ぎ、その内側に船を安全に停泊したようです。

約100年前に兵庫運河を建設した八尾善四郎の銅像は、高松橋の北側に現在も残っています。港を整備した平清盛とともに、神戸市教育委員会の副読本でも紹介され、小学生が地域の歴史として学んでいます(写真 7, 8)。